

## 2) 分水堰堤・栞台

- ①建設年代 明治39年（1906年）2月～明治40年（1907年）3月
- ②施設概要 切石積みアーチ堰堤及び切石積み分水施設
- ・アーチ堰堤 堤高：4.3m、堤長：14.0m、堤頂幅：0.9m
  - ・分水施設（栞台） 面積：約23.4 m<sup>2</sup>
- ③特徴 綺麗なアーチ堰堤及び分水施設内の大きな仕切弁ボックス

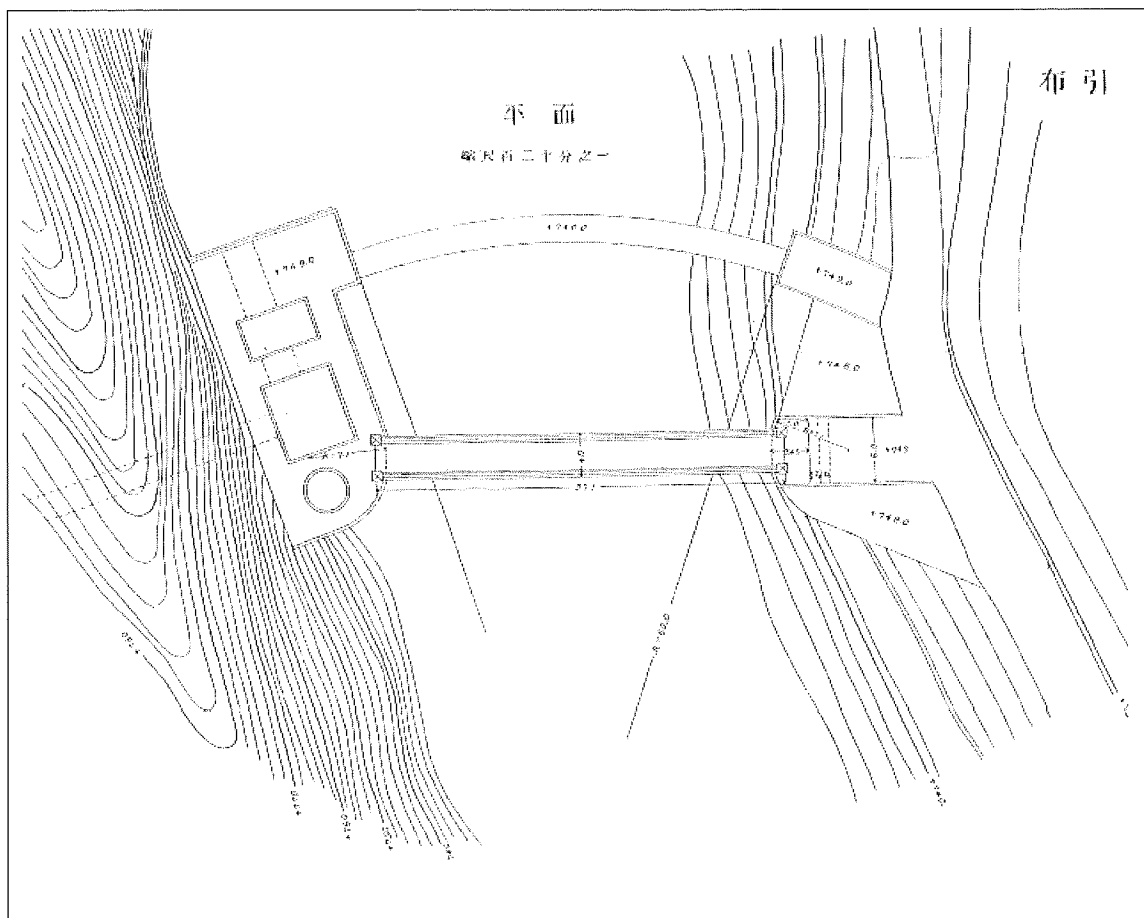


図3-4 分水堰堤平面図

上流からの渓流水を分水堰堤で堰止めして、図3-4の左側（右岸側）にある栞台から下流に至る分水隧道を経て、布引ダムに導水している。栞台内のろ過装置は、取水口部分に松材を15cmメッシュの格子状に配置して、礫砂及び細砂を詰めたものであった。

栞台内には、自動で閉塞する鋼製弁が設置されていたため、濁度が非常に高い場合や必要水量（1.1 m<sup>3</sup>/s）以上がダムに流入する場合に閉塞された。その際、オーバーフローした渓流水は、分水堰堤を越えて、下流側にある放水路隧道に導水されて、ダム下流側に放水された。

現在は、電動弁がここに据え付けられており、これらの分水施設は度々の水害を経験し、かつ経年化しているにも係わらず健全に稼働している。